

手づくりレシピ

雪うさぎイニシャルチャーム



【材料】

- ・シリコンモールドアルファベットRSSC-193
- ・LEDレジ液
- ・ヒートンキャップRSP-404G 1個
- ・ナスカンキーリングBJ-305G 1本
- ・マイパレット ホワイトRS-401
- ・マイパレット レッドRS-404
- ・マイパレット エメラルドRS-410
- ・メタリックホイルゴールド RS-244
- ・丸カン 1個

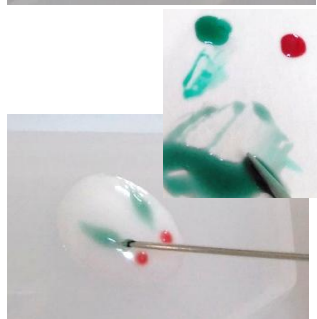
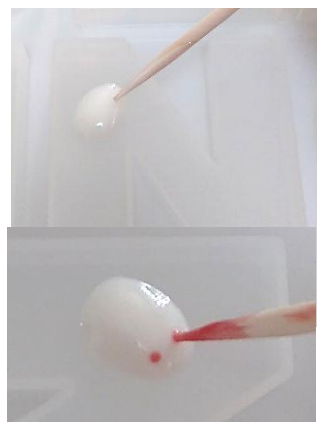
【必要な道具】

- ・LEDランプ・エンボスヒーター
- ・ピンセット・つまようじ・ニッパー
- ・牛乳パック・シリコンマット
- ・ハサミ・クラフトバフファースリム
- ・丸ヤットコ・平ヤットコ2本・綿棒
- ・幅広マスキングテープ・待ち針

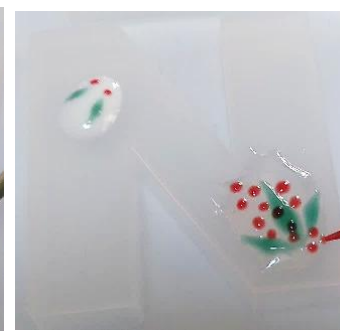
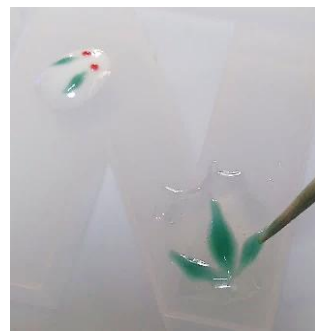
①パレットに5mm大のレジ液とマイパレットホワイト1滴を出し、濃いめのホワイトのレジ液を作ります。エンボスヒーターで気泡を消し、シリコンモールドNの裏面左上に収まる大きさに厚めに卵型の雪うさぎをつまようじで描きます。LEDライトで1分照射します。パレットにレジ液少量とマイパレットレッドを出し、濃いめのレッドのレジ液を作りエンボスヒーターで気泡を消し、つまようじの先でドットで目を描き照射します。※描きやすい向きにモールドを動かし描きましょう。色が薄い場合は一度照射し、重ね描きすると濃くなります。

パレットにレジ液少量とマイパレットエメラルドとレッドを少量出し、濃いめのエメラルドのレジ液を作り、ごく少量レッドを足してくすませます。(冬の作品ですので、エメラルドの明るさを落とします。)

エンボスヒーターで気泡を消し耳を描きます。※待ち針で先をひっぱって描くと葉先が細く描けます。



②シリコンモールドNの裏面右下に南天を描く範囲にうすく透明レジンをのばし1分照射し、①で使ったエメラルド+レッドごく少量のレジ液(雪うさぎの耳)で南天の葉を描き1分照射します。※色が薄い場合は一度照射し、重ね描きすると良いです。次にレッドのレジ液でつまようじのドットで南天の実を描き(うさぎの目より大きめに)照射します。シリコンモールドの下にLEDライトを置き裏からも照射します。雪うさぎと南天のパーツをはずします。



③メタリックホイルをつまようじ2本でランダムにちぎっておきます。シリコンモールド表面に、約3分の2の高さまで透明レジ液をいれ、シリコンモールドの角の気泡はつまようじの先で浮かせてエンボスヒーターで取り除きます。モールドの底が作品の表になることをイメージして、つまようじでメタリックホイルを配置し、雪うさぎと南天パーツの表を下向きに配置します。レジ液が足りないようでしたら3分の2の高さになるよう追加しバランスを整えて1分照射します。※このあと入れる背景色のグラデーションはカラーレジンの厚みが薄いほうが綺麗なグラデーションが出しやすいため、透明レジ液は3分の2の高さまで入れておきましょう。



雪うさぎイニシャルチャーム

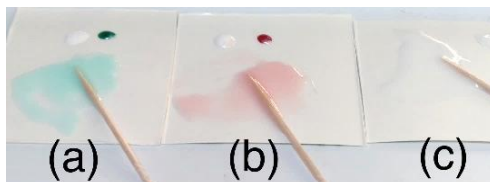


④パレット3枚にそれぞれレジンを約2cm大とマイパレットホワイトとエメラルド(a)・ホワイトとレッド(b)・ホワイト(c)を各1滴ずつだします。まずホワイト少量をつまようじに取り混ぜ、様子を見ながらエメラルドとレッドを少量ずつまぜて不透明色のレジンを3色を作ります。

エメラルドにはレッドをごく少量足すませます。エンボスヒーターで気泡を消します。

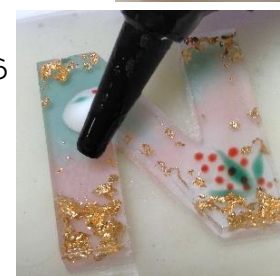
⑤③のシリコンモールドに右上から(a),(b),(c)の順にレジンを流します。モールドの高さまで流します。※シリコンモールドの縁に気泡が残ることがありますのでつまようじでさわっておきましょう。

色の境目をつまようじでなじませます。エンボスヒーターをかけることでグラデーションが出しやすいです。2分照射します。シリコンモールドごとひっくり返し、裏からも2分照射します。



⑥モールドから取り出し、バリはクラフトパッファースリムで取り除きます。裏面くぼみを埋める量のレジンをのせコーティングします。2分照射します。

表面全体にレジンをコーティングします。メタリックホイルの配置の調整がある場合はコーティングの前に薄くレジンをのばしメタリックホイルを配置し仮硬化後にコーティングをします。鋭角のくぼみ部分はレジン液が流れやすいです。最後にのせると良いです。2分照射し、べたつきが残るようでしたら様子を見て照射時間を長くします。



⑦ヒートンキャップをつけるところに少量のレジンを付け、ヒートンキャップ穴を前向きに置き30秒仮硬化。さらにヒートンキャップの根元に補強のレジンを付けて2分硬化します。平ヤットコ2本で丸カンを開閉し、ヒートンキャップとナスカンキーリングにつないで完成です。

